

令和7年度

岐阜大学大学院医学系研究科 看護学専攻

Master Programs of Nursing, Graduate School of Medicine, Gifu University



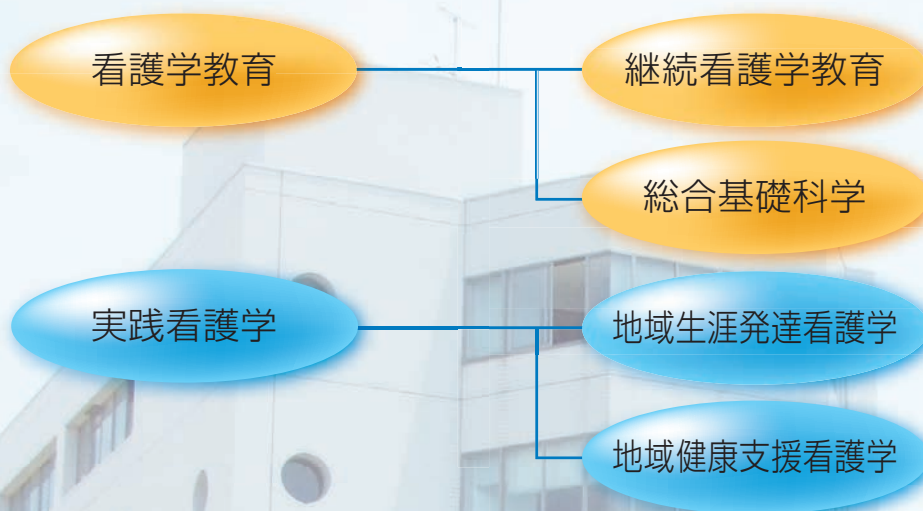
看護学専攻の教育の特徴

遺伝子治療や再生医療など医療技術が進歩する中で、医療の質の向上と効率化を図るため、医療情報提供の推進やIT化、科学的根拠に基づく医療、科学的根拠に基づく看護の推進など医療や看護を取り巻く環境は今日急速に変化しています。このような状況から、岐阜大学大学院医学系研究科看護学専攻は、最先端の看護教育と研究を実現し、より高度な医療技術の取得を目指す大学院課程として設置されました。本専攻では、特に医療の現場で活躍している看護職の方々にとり、これまでの看護実践を振り返り看護専門職としての役割や看護の効果を明らかにしたいという要求に十分に答えることが可能です。

本専攻の教育の特徴は、有職者の学習意欲に応えるため、昼夜開講制と共に通常の2年課程に加え3年間の長期履修制度の導入や、職を辞さずに学習や研究ができるようにオンラインによる対応など、環境を整備していることが挙げられます。

看護学専攻には、「看護学教育」と「実践看護学」の2領域を設け、看護学教育領域には、「継続看護学教育」、「総合基礎科学」を、実践看護学領域には「地域生涯発達看護学」、「地域健康支援看護学」を設けています。

専攻分野と教育課程の編成



アドミッション・ポリシー

看護学専攻では、研究能力・教育能力・マネジメント能力および統合する力を備え、臨床や地域、教育現場においてリーダー的な役割を担うことができる看護専門職の育成を目的にしています。看護を実践していく中での明確な疑問や課題をもち、以下の資質・能力のある院生を求めます。

■求める院生像

- ・看護研究への関心が高く、真摯な態度で自主的に研究を行おうとする意欲を有する人《**関心・意欲**》
- ・大学院での学修及び研究に必要な基礎的知識と看護の専門的知識を備えている人《**知識・教養**》
- ・得た情報を整理して、正しく理解できる人《**理解力**》
- ・確かな看護の専門的知識に基づき、総合的かつ論理的に考えられる人《**思考力**》
- ・看護実践又は教育の場面における疑問に気付き、それを追求していける人《**課題発見力**》
- ・広い教養と社会人としての常識をもち、社会的責任を認識している人《**一般常識**》

カリキュラム・ポリシー

看護学専攻には看護専門領域として、看護学教育と実践看護学の2領域を設け、共通科目と専門科目からなるカリキュラム編成をしています。

1. 看護専門領域の基礎となる看護理論、医療英語、教育方法、マネジメント、医療倫理、医療情報に関して院生自身が主体的に幅広く学べるように、分野に関係なく履修できる共通科目のほとんどを選択科目とします。
2. 看護研究に関する基礎的な知識と、より具体的な量的・質的な研究の方法論を学べるようにします。
3. 専門科目においては、看護学教育と実践看護学の各領域の専門性をふまえた、実践につながる理論・研究について学べるようにします。
4. 選択している専門分野以外の専門分野についても院生がより幅広く学べるように、専門科目の一部を自由選択科目とします。
5. 修士論文作成に関して、より良い研究計画が立てられるように、他分野の教員から幅広い助言を得られる研究計画発表会を設けます。
6. 9月または3月に修了可能なように、修士論文審査は、審査基準に基づいて年2回実施します。
7. 社会人院生の長期履修にも対応できるように大学院設置基準第14条特例に基づいたカリキュラムとします。

ディプロマ・ポリシー

看護学専攻では、以下の能力を総合的に身につけた人に学位を授与します。

1. 看護学教育及び実践看護学に関する課題を追求していく研究能力
2. 患者・地域住民・看護職・学生を学問的文脈において理解し、さまざまな場面で活用できる教育能力
3. 専門職としてリーダー的役割を担い、保健医療福祉の変化に対応し行動するために必要な自己管理を含むマネジメント能力
4. 看護の対象となる人々にとって最善の利益となるような行動につながる、統合する力

分野(専門分野)の紹介

継続看護学教育

■看護学教育

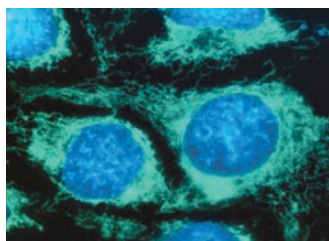
看護学教育では、看護専門職として望ましい看護基礎教育及び看護継続教育のあり方(教育プログラムの開発、教育内容、教育方法、教育評価など)を探究します。併せて教育方法や教育評価に関する理論を学び、看護教育を体系的に理解し教育できる教育実践能力を育成します。看護学教育分野が開講している「専門科目」の他に、基盤となる知識や見識を深めるのに役立つ「共通科目」を自己の関心に応じて履修することにより、教育観の具体化を図ることができます。



社本生衣 看護学教育における技術教育方法および教育評価、看護技術に関する根拠の探究や開発に関する研究指導を行う

魚住郁子 看護基礎教育、看護継続教育の課題に関する研究指導を行う

総合基礎科学



■生命機能学

生命機能学では、遺伝子やタンパク質のネットワーク解析を通じて、種々の疾病に関わる遺伝子の解析を行っています。さらに塩基配列やアミノ酸配列の解析を通じて、遺伝子の分子進化についても研究しています。

また、アレルギー疾患に関与する分子をターゲットとして、その機能解析や構造解析を行っています。

寺田知新 アレルギー疾患に関与する分子は種々あるが、これらの機能解析および構造解析について研究指導を行う

■総合科学

総合科学では、主に疫学および保健統計学の方法論を基盤として、看護と関連が深い公衆衛生、学校保健、産業保健などにまたがる学際的な課題を探究します。科学の方法および記述の観点から研究に取り組み、集団として扱う量的研究を通じて、人の健康現象や疾病について原因と結果との関連性(因果関係)を把握する力や分析する力、その成果を社会的に活用する力、異文化理解のためのコミュニケーション能力の育成を目指します。

三好美浩 疫学・保健統計学の方法論を基盤とした、看護に関連した学際的研究の指導を行う

地域生涯発達看護学

■母性看護学

女性の生涯を通じたセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関わる健康問題、周産期の女性と家族の健康課題についての知識と技術の体系化、助産師による援助の在り方を追求します。また、母性看護・助産学領域での援助方法の開発や、女性の健康の保持増進にむけて指導的役割を担う人材を育成することを目指します。

井關敦子 中高年女性の健康、育児支援、助産師教育、性的少数者および性別不合に関する研究

三尾亜喜代 生殖医療を受療する当事者のQOL向上、母性看護学・助産学の教育方法に関する研究

久我原朋子 妊婦のつわりおよび口腔衛生、妊娠褥婦と新生児の災害看護、ラマダン月の妊婦の断食に関する研究

■小児看護学

少子化に伴う社会の様々な変化は子どもと家族の生活に大きな影響を及ぼし、一方、高度化する医療により健康障害をもつ子どもには新たな課題が生じています。こうしたなかで小児看護では、複雑な課題に対応する看護実践能力と、医療だけでなく教育・福祉等の多職種と連携して取り組む力が求められます。当分野では、あらゆる健康状態にある子どもがその子らしくすこやかに育ちゆくことをめざして、小児看護にかかわる理論や概念を学び、看護援助の研究・開発に取り組みます。

■成人急性期看護学

成人急性期看護学においてはクリティカルケアを必要とする患者とその家族への看護・教育について考察することで、エビデンスに基づいた質の高い看護援助を提供するための知識と技術を体系的に学ぶことを目的とします。看護介入や心理学に関する様々な理論を基盤とし、危機状態にある患者と家族を支える看護や、急性期看護における倫理的諸問題についての洞察を深め、急性期に特有な看護援助のあり方について探究します。



高橋由起子 集中ケア、周手術期、臓器移植など、クリティカルケアを必要とする患者及びその家族を対象とした看護・教育に関する研究指導を行う

■成人慢性期看護学

慢性的な病いや障害を有する人が、その人らしくより良く社会や家庭で生活するための高度な看護実践能力の習得を目指します。そのため、それらに関わる理論、概念、具体的な看護方法などを国内外の最新の情報を概観しながら、理解を深めます。研究では、慢性的な病いや障害を有する人に対しての発症直後から死を迎えるまでの質の高い看護実践について探求します。

中川ひろみ 顕在・潜在する様々な慢性的な健康問題を有する人を対象とした生活習慣予防・管理に関する看護実践について研究指導を行う



■老年看護学

臨床における高齢者のみでなく、対象を広く社会の中で生活する老年期にある人にとらえ、それらの対象者への看護を探究します。具体的には、わが国が急速に少子高齢社会に至った経過と今後の展望を理解し、社会に必要とされる高齢者看護の方法を開発すること、老年期にある人が生活するうえで生じるあらゆる看護ニーズに対応できる能力を開発することなどに取り組んでいきます。

小木曾加奈子 さまざまな側面から高齢者の立場を理解し寄り添い、人としての尊厳を守り、生活の質を高めるケアに関する研究指導を行う

地域健康支援看護学

■地域看護学

地域で生活している様々な健康レベルやライフステージにある人々を対象に、健康レベルやQOLの向上に向けて看護を探究します。地域保健、産業保健、学校保健などの公衆衛生看護分野や、退院調整及び在宅看護等の在宅における医療看護福祉分野における課題に看護の視点から取り組んでいます。



纈 纈 朋 弥 ヘルスプロモーションの理念に基づく公衆衛生看護活動、保健行動に関する研究指導を行う

小 林 和 成 地域における看護職の専門性や対象別の活動特性の探求、地域住民や在宅療養者、家族等の実態理解と効果的な支援内容・方法の考案に関する研究について教学する

西 田 友 子 地域住民を対象とした疾病予防・健康増進に関する研究、特に集団を対象とした調査による量的研究を指導する

■精神看護学

現代社会におけるメンタルヘルス上の諸問題、精神疾患患者の増加、「病院から地域へ」の施策の転換など、精神医療をとりまく状況は大きく変化し、精神看護に求められる役割は拡大の一途を辿っています。とりわけ、自殺やその背景にあるうつ病、社会的入院患者の社会復帰などの課題は急務であり、精神看護学では、こうした課題に看護の視点から取り組んでいます。

開設授業科目

専 門 科 目	共通科目	看護学研究方法論Ⅰ 看護学研究方法論Ⅱ 看護学研究方法論Ⅲ 生活機能と看護 対人関係論	看護理論 医療英語 医療情報学 生体構造動態学 看護マネジメント論	情報・統計学 生命倫理・医療倫理学
	継続看護学教育	看護学教育特論 看護学教育特別演習	看護学教育特別研究Ⅰ 看護学教育特別研究Ⅱ	看護学教育方法特論 看護学教育評価特論
	総合基礎科学	生命機能学特論 総合科学特論 生命機能学特別演習 総合科学特別演習	生命機能学特別研究Ⅰ 生命機能学特別研究Ⅱ 総合科学特別研究Ⅰ 総合科学特別研究Ⅱ	バイオインフォマティクス特論 疫学的研究方法特論
	地域生涯発達看護学	母性看護学特論 小児看護学特論 成人急性期看護学特論 成人慢性期看護学特論 老年看護学特論 母性看護学特別演習 小児看護学特別演習 成人急性期看護学特別演習 成人慢性期看護学特別演習	老年看護学特別演習 母性看護学特別研究Ⅰ 母性看護学特別研究Ⅱ 小児看護学特別研究Ⅰ 小児看護学特別研究Ⅱ 成人急性期看護学特別研究Ⅰ 成人急性期看護学特別研究Ⅱ 成人慢性期看護学特別研究Ⅰ 成人慢性期看護学特別研究Ⅱ	老年看護学特別研究Ⅰ 老年看護学特別研究Ⅱ ウィメンズヘルスケア特論 助産ケア特論 小児家族看護学特論 小児慢性期ケア特論 セルフケア特論 クリティカルケア特論 高齢者ケア特論
	地域健康支援看護学	地域看護学特論 精神看護学特論 地域看護学特別演習 精神看護学特別演習	地域看護学特別研究Ⅰ 地域看護学特別研究Ⅱ 精神看護学特別研究Ⅰ 精神看護学特別研究Ⅱ	ICTとヘルスプロモーション 地域保健活動特論 精神看護活動特論

修了生・在学生のメッセージ

私は、実習や授業で、既存研究を多く参照し、その重要性を実感してきました。その中で、既存の研究だけでは解決できないリサーチクエストについて研究したいと考え、大学院へ進学することにしました。学部から大学院へ直接進学することに関しては、先入観にとらわれず柔軟な発想ができること、さらに、多様なバックグラウンドをもつ同級生や先輩方、先生方から知識を吸収できることがメリットだと感じています。大学院では分野にとらわれず、幅広い知識・視点から研究を進めていきたいと思っています。 在学生 加藤総一郎さん



私は、認知症看護認定看護師として老年分野における専門的知識の向上と、管理者として自立した研究遂行能力の習得を目的に入学しました。指導教員の先生をはじめ多くの先生方や境遇の異なる院生との活発なディスカッションを通じ、理論や研究技法を学ぶことができました。また、学んだことを現場の実践に活かすことで、看護の楽しさ、さらに深化させていくことの可能性を知ることができました。大学院での学びの2年間は、自身の視野や可能性を拡大させる時間となり、貴重な財産です。 修了後は、看護スタッフへの教育や研究活動を通して、看護の喜びを分かち合える実践を行っていききたいと思っています。 修了生 百武大介さん



私は、認知症看護認定看護師として老年分野における専門的知識の向上と、管理者として自立した研究遂行能力の習得を目的に入学しました。指導教員の先生をはじめ多くの先生方や境遇の異なる院生との活発なディスカッションを通じ、理論や研究技法を学ぶことができました。また、学んだことを現場の実践に活かすことで、看護の楽しさ、さらに深化させていくことの可能性を知ることができました。大学院での学びの2年間は、自身の視野や可能性を拡大させる時間となり、貴重な財産です。 修了後は、看護スタッフへの教育や研究活動を通して、看護の喜びを分かち合える実践を行っていききたいと思っています。 修了生 百武大介さん

大学院を志した理由は、大学教育に携わる中で教育や研究について学ぶ必要性を感じたからです。学生理解や授業設計、教育評価等の教育方法を学ぶことで、自信を持って学生と関われるようになりました。また、授業で研究の基礎を学び、指導教員の先生方に助言を受け、ゼミの仲間達と共に修士論文に取り組むことで、一人では気付けなかった視点や研究の質を高める方法を修得することができたと感じました。院生は在職者が多く、教育や臨床と異なる職場で働く看護職との意見交換や情報共有から多くの刺激や学びを得ることができ、大切な繋がりができました。今後は大学院での学びを教育に還元していきたいと思っています。 修了生 森下智美さん



大学院を志した理由は、大学教育に携わる中で教育や研究について学ぶ必要性を感じたからです。学生理解や授業設計、教育評価等の教育方法を学ぶことで、自信を持って学生と関われるようになりました。また、授業で研究の基礎を学び、指導教員の先生方に助言を受け、ゼミの仲間達と共に修士論文に取り組むことで、一人では気付けなかった視点や研究の質を高める方法を修得することができたと感じました。院生は在職者が多く、教育や臨床と異なる職場で働く看護職との意見交換や情報共有から多くの刺激や学びを得ることができ、大切な繋がりができました。今後は大学院での学びを教育に還元していきたいと思っています。 修了生 森下智美さん

入試案内

看護学専攻の募集人員は8名

【選抜方法】

- 入学試験科目は、専門科目^{注1)}、外国語(英語)^{注2)}及び面接。
注1) 専門科目は、志望する分野が示す試験科目から1科目を選択。
注2) 試験には辞書1冊の持ち込みが可能。
- 働きながら学ぶ学生を支援。
・昼間のほか、夜にも講義及び研究指導を行う「昼夜開講制」を実施。
・標準修業年限(2年)を3年間で修了する「長期履修制度」^{注3)}を導入。
注3) 授業料は2年間分の授業料を年(学期)単位で納付

【問合せ先】

国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学医学部看護学科 学務係
〒501-1194 岐阜市柳戸1-1
TEL:058-293-3217/3218
FAX:058-293-3219

https://www.med.gifu-u.ac.jp/grad/grad_nur/

